

史料番号	字句	よみ	意味
	銃後	ジュウゴ	直接戦闘に携わっていないが、間接的に何かの形で戦争に参加している一般国民
273	在郷軍人会 尚武思想 修養 献納 醸金 義金 視学 懇請 楼上 不聞の一偉人 満鉄 満蒙 自力更生 五観	ザイゴウゲンジンカイ ショウブシソウ シュウヨウ ケンノウ キョキン ギキン シガク コンセイ ロウジョウ フブンノイチイジン マンテツ マンモウ ジリキコウセイ ゴカン	明治43年帝国在郷軍人会として発足 初め親睦・修養などを目的としたが、昭和期には軍国主義の宣伝・戦争協力を行なった 武道・武勇を重んじる思想 知識を高め、品性を磨き、自己の人格形成につとめること 神仏・国家・公共団体などに、金品を差し上げること 奉納 献上 ある目的のために金を出し合うこと 義捐(慈善や被災者救済などの趣旨で、金銭や品物を差し出すこと)のために寄付する金銭 旧制度の地方教育行政官 学事の視察および教育指導に当たった 心を込めてひたすら頼むこと 高い建物の上 階上 名声なき一人の偉人 「南満州鉄道」の略称 日露戦争でロシアから獲得した南満州の鉄道とその付属事業を経営する半官半民の国策会社 明治39年(1906)設立 満州国創立後は満州国有となった鉄道全部を経営、他の産業部門にも進出し、日本の中国侵略の拠点となった もと満州および内蒙古(うちもうこ)の略称 他の力を頼らず、自分の力によって立ちなおること 五観の偈(ごかんのげ)は、主に禅宗において食事の前に唱えられる偈文 僧侶の食事作法のひとつだが、道徳的普遍性の高い文章であるため禅に限らず多くの分野で引用されている
274	国威 宣揚 鼓吹 漲らし 国家社会党 皇道主義 謳歌 一君万民 大和魂 裡	コクイ センヨウ コスイ ミナギラシ コッカシャカイトウ コウドウシュギ オウカ イッキンバンミン ヤマトダマシイ リ	国の威力 国が対外的に持つ威力 広く世の中にはっきりと示すこと 意見や思想を盛んに唱えて、広く賛成を得ようとする こと みなぎるようにする あふれさせる 昭和6年(1931)9月に設立された国家社会主義の研究・実践指導団体 行地社で労働組合の担当であった松延繁次(鉄道従業員組合長)を中心とし、この松永が率いる知友社、社会民衆党の赤松克麿一派、「日協」関係の津久井龍雄一派を結びつけて設立した 右翼国家主義団体の資金援助を得、社会民衆党・全国労農大衆党の一部を取り込んで、日本国家社会党を形成した 尊皇、天皇制軍国主義 声をそろえて褒めたたえること 天皇のもとに万民は平等であるという考え 勇敢で、潔いことが特徴とされる 天皇制における国粹主義思想、戦時中の軍国主義思想のもとで喧伝(けんてん/盛んに言いはやして世間に広く知らせること)された …のうち
275	人絹 在郷軍人 銃後 カフェー	ジンケン ザイゴウゲンジン ジュウゴ カフェー	天然の絹糸をまねてつくった化学繊維 綿花・木材パルプなどの繊維素を薬品で溶かして加工したレーヨン・アセテートの長繊維をいう 平時は民間で生業に就いているが、戦時には必要に応じて召集され国防の任に就く予備役・後備役などの軍人 直接戦闘に携わっていないが、間接的に何かの形で戦争に参加している一般国民 大正・昭和初期に、女給が酌をして洋酒類を飲ませた飲食店
276	燐寸 行商 皇軍 健気	マッチ ギョウショウ コウゲン ケナゲ	マッチ 店を構えず、商品を持って売り歩くこと 天皇が統率する軍隊 もと、日本の陸海軍を称した 心がけがよく、しっかりしていること
277	日中戦争 餞別金 慰問袋 保姆 褌 煙草 乳母車 武運 長久 皇軍 三貫四百匁 銃後の護 殉国 戦捷 襷 木銃 背囊 供ふ	ニッチュウセンソウ センバツキン イモンブクロ ホボ フンドシ タバコ ウバグルマ ブウン チョウキョウ コウゲン 3カン400モンメ ジュウゴノマモリ ジュンコク センショウ タスキ モクジュウ ハイノウ ソナウ	昭和12年(1937)7月の盧溝橋(ろこうきょう)事件をきっかけにして起こった日本と中国との間の戦争 はじめ日本政府は支那事変あるいは日支事変と呼んだ 別れのしるしとして贈る金 出征軍人などの慰問のために手紙・日用品・娯楽品などを入れた袋 児童の保育にあたる女子職員の俗称 ふんどし たばこ 乳幼児を乗せて押して歩く四輪の手押し車 武士・軍人としての運命 長く続くこと 天皇が統率する軍隊 もと、日本の陸海軍を称した 尺貫法の重さの単位 1貫は3.75キロ、1匁は3.75グラム 三貫四百匁=12.75キロ 男が戦場に赴いた後、妻たちが地域や家族を守ること 国家のために身命を捨てて尽くすこと 戦争に勝つこと 戦勝 たすき 和服の袖やたもとがじゃまにならないようにたくし上げるためのひも 木製の銃 銃剣術の練習用 皮や布で作った、背中に負う方形のかばん 軍人などが用いる ささげる

史料番号	字句	よみ	意味
	キントン飴 ノラクロ 宛 愈々 劇しく 降り募り 魁けて 吏員 奉安殿 タンボリン 供花 英霊 戦線	キントンアメ ノラクロ ズツ イヨイヨ ハゲシク フリツノリ サキガケテ リイン ハウアンデン タンボリン クゲ、キョウカ エイレイ センセン	芋飴 のらくろ 田河水泡の漫画、野良の黒犬・のらくろが犬の軍隊へ入隊して活躍するというお話 最初は二等兵だったが徐々に階級を上げていく 割当て ますます より一層 ひどく (雨が)ますます激しくなってくる 他に先んじて事をする 公共団体(町役場)の職員 第二次大戦中まで、各学校で御真影や教育勅語などを収めていた建物 タンボリン 仏または死者に花を供えること 死者、特に戦死者の霊を敬ってという語 戦闘を交えている地域 戦闘の第一線
278	銃後 減免 善処 紀元節 奉祝 興国 作興 堅忍 持久 更生 意気振作 灯火管制 注文	ジュウゴ ゲンメン ゼンショ キゲンセツ ハウシュク コウコク サッコウ ケンニン ジキュウ コウセイ イキシンスク トウカカンセイ チュウモン	直接戦闘に携わっていないが、間接的に何かの形で戦争に参加している一般国民 租税を軽くしたり免除したりすること 適切に処置すること 日本書紀の伝える神武天皇即位の日に基づいて制定された祝日で、2月11日 つつしんでお祝いをすること 国の勢いを盛んにすること 奮い立たせること 盛んにすること つらいことによく耐え忍ぶこと 長時間もちこたえること 立ち直ること 人の気持ち、意気ごみを盛んにすること 奮い起こさせること 夜間、空襲に備え、灯火を消したり覆ったりして光がもれないようにすること 注文
279	来寇 廿 帝都 果敢 雄渾 気魄 中部軍 遺憾なき 頓に 緊迫 算 爾後 自…至… 実相 徴し 罹災者 蒲団 供出 坪 縁故疎開者 有事 尤も 緊要 等閑 寒心 溜水 汲出し 补水	ライコウ ニジュウ テイト カカン ユウコン キハク チュウブグン イカンナキ トミニ キンパク サン ジゴ ヨリ…マデ… ジッソウ チョウシ リサイシャ フトン キョウシュツ ツボ エンコソカイシャ ユウジ モットモ キンヨウ トウカン、ナオザリ カンシン タメミズ クミダシ ホスイ	外敵が攻めてくること 20 皇居のある都 東京 決断力に富み、物事を思いきってすること 雄大で勢いのよいこと 力強く立ち向かってゆく精神力 気迫 中部軍は、大日本帝国陸軍の軍の一つ 中部防衛司令部として発足し中部・近畿地方を管轄区域とする中部軍司令部が軍管区内の軍隊を指揮・統率した 心残りが無いほど十分に 申し分なく 急に にわかに 状況などが、非常に差し迫っていること 見込み それ以来 以後 …から…まで 実際のありさま 照らし合わす 災害にあったひと 被災者 ふとん 寝具 政府などの要請に応じて金品などを差し出すこと 土地の面積の単位 1坪は6尺平方で約3.3平方メートル 5200坪=17,160平方メートル 親戚や知人を頼って疎開する者 戦争や事変など、非常の事態が起こること まったく 当然 非常に重要なこと 差し迫って必要なこと いいかげんに扱うこと なおざり 恐れや不安の念で、ぞっとすること 防火用などにためておく水 汲み出すこと 水を補う
280	通牒 戦死者 今次事変 第十師団 配慮方通知有之候 御考慮相成度、此段及通牒候也 死亡賜金	ソウチョウ センボツシャ コンジジヘン ダイジュウシダン ハイリョカタツウチコレアリソウロウ ゴコウリョアイナリタク、コノダンニオヨビツウチョウソウロウナリ シボウシキン	書面で通知することその書面 通達の旧称 戦死者 このたびの事変 昭和12年(1937)の支那事変/日支事変=日中戦争 大日本帝国陸軍の師団の一つ 日清戦争が終り、軍備拡張の必要性から新たに増設された6個師団の一つで、明治31年(1898)10月に編成された 補充担任は姫路師管区で、兵庫・岡山・鳥取三県と島根県の一部を徴兵区としている 配慮するよう通知がありました 考慮いただきたいとの通達があります 戦死のため下賜される金銭

史料番号	字句	よみ	意味
	伍長 上等兵 一等兵	ゴチョウ ジョウトウヘイ イトウヘイ	【軍隊の階級】(太平洋戦争末期) (陸軍) 将官:大将・中将・少将 佐官:大佐・中佐・少佐 尉官:大尉・中尉・少尉 准士官:准尉 下士官:曹長・軍曹・伍長 兵:兵長・上等兵・一等兵・二等兵 (海軍) 将官:大将・中将・少将 佐官:大佐・中佐・少佐 尉官:大尉・中尉・少尉 准士官:兵曹長 下士官:上等兵長・一等兵長・二等兵長 兵:水兵長・上等水兵・一等水兵・二等水兵
281	陳者 来る 晴雨に関はらず 去る 北支 陣歿 衛戍地 斯く 御諒承被下度 徽章 将校 宛 度 携行 奉奠	ノブレバ キタル セイウニカカワラズ サル ホクシ ジンボツ エイジュチ カク ゴリョウショウクダサレタシ キショウ ショウコウ ズツ タン ケイコウ ホウデン	さて 候文などの手紙で、時候のあいさつの次、本文の書き出しに用いる この次の 近いうちにくる 晴れ、雨(天候)に関わらず 先日 過ぎ去った 中国東北部 華北 戦地で死ぬこと 戦没 軍隊が長く駐屯して防衛する重要地域 このような ご承知いただきたい 職業・身分・所属などを示すためにつけるしるし バッジ 軍隊で、少尉以上の武官 割当て …していただきたい 身につけて持って行くこと つつしんで供えること
282	北支戦線 伍長 上等兵 出迎致度候条 多数出迎相成 此段御通知旁々及御依頼候也 原隊 弔旗 水撤	ホクシセンセン ゴチョウ ジョウトウヘイ デムカエイタシタクソウロウジョウ タスウデムカエイナルヨウトクベツノゴハイリオアイナリタク ゲンタイ チョウキ ミズマキ	昭和12年(1937)の支那事変/日支事変=日中戦争の戦地 280【軍隊の階級】参照 280【軍隊の階級】参照 出迎えいたしたいので 様特別の御配慮相成度 多数の出迎えいただくよう特別のご配慮をいただきました この件につきご通知するのにかねてご依頼します 軍隊で、もと所属していた部隊 旗竿の球を黒布で包み、球と旗竿との間に細長い黒布をつけたり半旗にしたりしたもの 弔意を表すために掲げる国旗 土ぼこりなどが立たないように、地面に水をまくこと
283	事変 死歿者 通牒 首題 諒解 向き 度 寄留 感銘 代拝 予め 可致 時宜 差支 師団長 旅団長 聯隊長 儀仗兵 里 意嚮 衛戍地 又若 救恤 満州事変 恤兵金	ジヘン シボツシャ ツウチョウ シュダイ リョウカイ ムキ タン キリュウ カンメイ ダイハイ アラカジメ イタスベシ ジギ サシツカエ シダンチョウ リョダンチョウ レントイチョウ ギジョウヘイ リ イコウ エイジュチ マタモシクハ キュウジュツ マンシュウジヘン ジュッペイキン	昭和12年(1937)の支那事変/日支事変=日中戦争 死亡者 書面で通知することその書面 通達の旧称 文書などの初めに書いてある題目 事情を理解して承認すること 了承 傾向 …していただきたい 滞在 忘れられないほど深く感動すること 本人に代わって参拝すること 前もって …すること 適当な時期 支障 【陸軍の単位】(昭和12年日中戦争/支那事変・日支事変以降) 総軍 - 方面軍 軍 - 軍団 - 師団 - 旅団 連隊 - 大隊 - 中隊 - 小隊 - 分隊 - 班 総軍 > 方面軍 > 軍 > 軍団 > 師団 > 旅団 > 連隊 > 大隊 > 中隊 > 小隊 > 分隊 > 班 儀礼・護衛のために、天皇・皇族・高官や外国の賓客などにつけられる兵 尺貫法の距離の単位 1里は36町で、3.927キロ どうするつもりかという考え 意向 軍隊が長く駐屯して防衛する重要地域 又あるいは 困っている人に見舞いの金品などを与えて救うこと 昭和6年(1931)9月18日、奉天郊外での柳条湖事件を契機に始まった、日本の中国東北部への侵略戦争 恤兵=物品を送って、戦地の兵士を慰問すること

史料番号	字句	よみ	意味
	今次事変 慰恤 遺憾なき 徽章 宛 御配布被下度候 在郷軍人会	コンジジヘン イジュツ イカンナキ キショウ ズツ ゴハイフクダサレタクソウロウ ザイゴウグンジンカイ	このたびの事変 昭和12年(1937)の支那事変/日支事変＝日中戦争 なくさめめぐむこと 心残りが無いほど十分に 申し分なく 職業・身分・所属などを示すためにつけるしるし バッジ 割当て ご配布していただきたい 明治43年帝国在郷軍人会として発足 初め親睦・修養などを目的としたが、昭和期には 軍国主義の宣伝・戦争協力を行なった
284	将兵 合祀 慰霊 虚礼 香料 香華料 乃至 香奠返 供物 供花 儘 祭祀 輿	ショウヘイ ゴウシ イレイ キョレイ コウリョウ コウゲリョウ ナイシ コウデンガエシ クモツ クゲ、キョウカ ママ サイシ コシ	将校(軍隊で、少尉以上の武官)と兵士 2柱以上の英霊を一つの神社にまつこと 死んだ人の霊を慰めること 形式的な礼儀 うわべばかりで誠意を伴わない礼儀 香典 死者の霊前に供えて、香や花の代わりとする金品 香華＝仏前に供える香と花 …から…まで 香典のお返し お供えもの 仏または死者に花を供えること その状態のまま 祭ること 祭典 2本の轆(ながえ:長柄)に棺桶を載せて担ぐ葬具
285	陳者 伍長 上等兵 来る 執行可仕候間 敬具	ノブレバ ゴチョウ ジョウトウヘイ キタル シッコウツカマツリベクソウロウアイダ ケイダ	さて 候文などの手紙で、時候のあいさつの次、本文の書き出しに用いる 280【軍隊の階級】参照 280【軍隊の階級】参照 この次の 近いうちにくる 執行するものとするので 「謹んで申し上げますの意」 手紙などの末尾に用いる語
286	来る 戦死者 執行可致候 御援助相願度 御周知相煩度 此段及通知旁 御依頼候也 吊旗 徽章	キタル センボツシャ シッコウイタスベクソウロウ ゴエンジョアイネガイタシ ゴシュウチアイワズラワシタク コノダンニオヨビツウチカタガタゴイライソウロウナリ チョウキ キショウ	この次の 近いうちにくる 戦死者 執行いたすものとします ご援助をお願いしたい ご周知の面倒をかけた この件の通知するのとかねてご依頼します 旗竿の球を黒布で包み、球と旗竿との間に細長い黒布をつけたり半旗にしたりしたもの 弔意を表すために掲げる国旗 職業・身分・所属などを示すためにつけるしるし バッジ
287	支那事変 戦死者	シナジヘン センボツシャ	昭和12年(1937)7月の盧溝橋(ろこうきょう)事件をきっかけにして起こった日本と中国との間の戦争(日中戦争) はじめ日本政府は支那事変あるいは日支事変と呼んだ 戦死者
288	喚鐘 導師 四奉請 鏡鉢 猊下 下炬 読経 回向 追而	カンショウ ドウシ シブジョウ ニョウハチ ゲイカ アコ ドキョウ エコウ オツテ	法会(ほうえ)などの開始を報じる小形の梵鐘 法会などのとき、衆僧の首座として儀式を執り行う僧 偈文(げもん)＝経典中で、詩句の形式をとり、教理や仏・菩薩をほめたたえた言葉 仏事に用いる打楽器で、シンバルのような銅製の皿状の2枚を打ち合わせて音を出す 高僧に対する敬称 一つの宗派の管長に対する敬称 禅宗で、火葬のときに導師が遺体を焼く燃料に火をつけること のちには偈(げ)を唱えてしぐさをするだけになった 経文を音読すること 回向文 法会(ほうえ)の終わりに、修めた功德を一切衆生(いっさいしゅじょう)に振り向けるために唱える願いの経文 追而書＝本文に付け加えて書くこと なお書き 追伸
289	儀仗 伍長 上等兵 在営兵	ギジョウ ゴチョウ ジョウトウヘイ ザイエイヘイ	儀式に用いる装飾的な武器・武器 280【軍隊の階級】参照 280【軍隊の階級】参照 軍務に服している兵
290	陳者 伍長 上等兵 辱ふし 御町重 香資 拝趨	ノブレバ ゴチョウ ジョウトウヘイ カタジケノウシ ゴテイチョウ コウシ ハイスウ	さて 候文などの手紙で、時候のあいさつの次、本文の書き出しに用いる 280【軍隊の階級】参照 280【軍隊の階級】参照 感謝の念でいっぱいあります 身にすぎて、ありがたい 礼儀正しく、手厚いこと 香典 死者の霊前に供えて、香や花の代わりとする金品 出向くことをへりくだってという語 参上

史料番号	字句	よみ	意味
	乍略儀 如斯に御座候	リヤクギナガラ カクノゴトシニゴザソウロウ	略儀ですが このような次第です
291	野田醤油 河盤 竣功 坪 六万坪 一万二千坪 石 十万石 余沢	ノダシヨウユ 河畔【カハン】 シュンコウ ツボ 60000ツボ 12000ツボ コク 100000コク ヨタク	現キッコーマン 河のほとり 工事が終了すること 竣工 土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル 198,000平方メートル 39,600平方メートル 尺貫法の容積の単位 1石は10斗で、180.39リットル 18,039立方メートル あり余って他にまで及ぶ広大な恩恵
292	副いたき 承り 略 諮問 小作地 小作人 一反 作付 小作米 纏る 払暁 離作 離農料	ソイタキ ウケタマワリ ホボ シモン コサクチ コサクニン 1タン サクヅケ コサクマイ マトマル フツギョウ リサク リノウリョウ	かなうようにしたい お受けする だいたい おおよそ 有識者または一定機関に、意見を求めること 小作人が地主から借りて、耕作している農地 小作料を支払って、地主から借りた田畑を耕作する者 土地の面積の単位 1反は991.74平方メートル 田畑に作物を植えつけること 小作人が小作料として地主に納める米 決まりがつく 明けがた 農地立ち退き 農業をやめるについての補償金
293	小作地 困却致居候間 何卒 御願ひ致居候 諒諾 懇願仕候 切迫致居候間 坪 小作人	コサクチ コンキヤクイタシオリソウロウアイダ ナニトゾ オネガイイタシイソウロウ リョウダク コンガンツカマツリソウロウ セツパクイタシイソウロウアイダ ツボ コサクニン	小作人が地主から借りて、耕作している農地 困却いたしているの どうか お願いいたしています 事情をくんで納得すること 承知すること 懇願(ひたすらお願いする)いたします 切迫いたしているの 土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル 小作料を支払って、地主から借りた田畑を耕作する者
294	尽瘁 斡旋 深甚 扱て 去る 小作料 一反 涙金 小作者 給与 拝承 附帯条件 承諾致候間 徹底せしめ置き被下度候 御提出被下度候 反別 井溝 藁 養水路 小作米 履行 漸次 離作料	ジンスイ アッセン シンジン サテ サル コサクリョウ 1タン ナミダキン コサクシャ キュウヨ ハイショウ フタイジョウケン ショウダクイタシソウロウアイダ テッテイセシメオキクダサレタクソウロウ ゴテイシュツクダサレタクソウロウ タンベツ セイコウ ワラ ヨウスイロ コサクマイ リコウ ゼンジ リサクリョウ	自分の労苦を顧みることなく、全力を尽くすこと 間に入って双方をうまく取り持つこと 意味や気持ちなどが非常に深いこと ところで 先日 過ぎ去った 小作人が地主に支払う小作地の使用料 土地の面積の単位 1反は991.74平方メートル 同情して与える金 また、お情けで与えるわずかな金 小作料を支払って、地主から借りた田畑を耕作する者 金品などをあてがい与えること 聞くこと、承知することをへりくだってという語 主な物事に伴って生ずること 付随する条件 承諾(相手の意見・希望・要求などを聞いて、受け入れること)いたしますので 徹底させておいて下されたい ご提出くだされたい 町・反・畝・歩の単位で表した田畑の面積 井戸とみぞ 用水路 稲・麦などの茎を干したのもの 用水路 小作人が小作料として地主に納める米 決めたことなどを実際に行うこと 実行 しだいに だんだん 農地立ち退き料
295	小作米 反別 一反	コサクマイ タンベツ 1タン	小作人が小作料として地主に納める米 町・反・畝・歩の単位で表した田畑の面積 土地の面積の単位 1反は991.74平方メートル

史料番号	字句	よみ	意味
	離作 涙金 離農 約諾	リサク ナミダキン リノウ ヤクダク	農地立ち退き 同情して与える金 また、お情けで与えるわずかな金 農業をやめること 約束して承知すること
296	人絹 既報 進捗 這般 殊に 大計 暁 福利 坪 十七万坪	ジンケン キホウ シンチョク シャハン コトニ タイケイ アカツキ フクリ ツボ 170000ツボ	天然の絹糸をまねてつくった化学繊維 綿花・木材パルプなどの繊維素を薬品で溶かして加工したレーヨン・アセテートの長繊維をいう すでに報道をしたこと 物事がはかどること このたび 今般 とりわけ 大規模な計画 実現したその際は 幸福と利益 土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル 561,000平方メートル
297	堪るか 人絹 十八万坪 デマ 諒解 廿日 期成同盟 陳情 時日 嘆願書 糾弾	タマルカ ジンケン 180000ツボ デマ リョウカイ ハツカ キセイドウメイ チンジョウ ジジツ タンガンショ キュウダン	…なるものか 天然の絹糸をまねてつくった化学繊維 綿花・木材パルプなどの繊維素を薬品で溶かして加工したレーヨン・アセテートの長繊維をいう 594,000平方メートル 「デマゴギー:Demagogie(独)」の略 事実と反するうわさ 理解して承認すること 了承 20日 同じ目標の実現に向かって、結束して活動する人々の組織 中央や地方の公的機関などに実情を訴えて、善処してくれるよう要請すること 日数 月日 嘆願(事情を詳しく述べて熱心に頼むこと)の内容を書きしるした文書 罪や責任を問いただし、非難すること
298	人絹 競願 陳情 認可 大童 斥け 火急 藉つて 徒らに 時日 肚 統制 予て 灌漑 六ヶ井	ジンケン キョウガン チンジョウ ニンカ オオワラワ シリゾケ カキュウ カッテ イタズラニ ジジツ ハラ トウセイ カネテ カンガイ ロッカイ	天然の絹糸をまねてつくった化学繊維 綿花・木材パルプなどの繊維素を薬品で溶かして加工したレーヨン・アセテートの長繊維をいう ある事柄の許可をめぐり、複数の個人または法人が官公署などに願い出ること 中央や地方の公的機関などに実情を訴えて、善処してくれるよう要請すること 適当と認めて、許可すること 一生懸命になること 夢中になってすること 受け入れないで、拒む 火のついたように、さし迫った状態にあること 緊急 借りて 無駄に むなしく 日数 月日 考えていること 本心 一定の計画や方針に従って指導・制限すること 以前から 前から 水路を引くなどして水を供給し、耕作地をうるおすこと 米田新、古新、小松原、荒井、今市、中島、高砂への用水路
299	三千坪 躍起 人絹 ピッチ 九千坪	3000ツボ ヤッキ ジンケン ピッチ 9000ツボ	9,900平方メートル あせってむきになること 天然の絹糸をまねてつくった化学繊維 綿花・木材パルプなどの繊維素を薬品で溶かして加工したレーヨン・アセテートの長繊維をいう 仕事や作業の能率 29,700平方メートル
300	大豪華版 竣工 人絹 躍進 待望裡に 聳える 来る 一万坪 大車輪 謳歌 斡旋 尋卒 高等小学卒	ダイゴウカバン シュンコウ ジンケン ヤクシン タイボウリニ ソビエル キタル 10000ツボ ダイシャリン オウカ アッセン ジンソツ コウトウショウガクソツ	大変ぜいたくで、はでなこと 工事が終了すること 落成 天然の絹糸をまねてつくった化学繊維 綿花・木材パルプなどの繊維素を薬品で溶かして加工したレーヨン・アセテートの長繊維をいう めざましい勢いで進出・発展すること 待望のうちに 非常に高く立つ そそりたつ この次の 近いうちにくる 33,000平方メートル 目的を達成するために、一生懸命にやること 恵まれた幸せを、みんなで大いに楽しみ喜び合うこと 間に入って双方をうまく取り持つこと 尋常小学校卒業 尋常小学校＝旧制の小学校で、満6歳以上の児童に初等普通教育を施した義務教育の学校 明治19年(1886)の小学校令により設置され、修業年限は初め4年、同40年からは6年 高等小学校卒業 高等小学校＝旧制で、尋常小学校を卒業した者に対し、さらに程度の高い初等教育を

史料番号	字句	よみ	意味
	強健 人造絹糸	キョウケン ジンゾウケンシ	行った学校 2年間に修業年限とするが、義務教育ではない からだが強くて丈夫であること 人絹 天然の絹糸をまねてつくった化学繊維 綿花・木材パルプなどの繊維素を薬品で溶かして加工したレーヨン・アセテートの長繊維をいう
	苛性曹達	カセイソーダ	水酸化ナトリウム、化学式 NaOH で表される無機化合物 工業的に非常に重要な基礎化学品の1つ
301	幹旋 躍進 人絹	アッセン ヤクシン ジンケン	間に入って双方をうまく取り持つこと めざましい勢いで進出・発展すること 天然の絹糸をまねてつくった化学繊維 綿花・木材パルプなどの繊維素を薬品で溶かして加工したレーヨン・アセテートの長繊維をいう
	盛つて 竣工 在郷軍人	サカッテ シュンコウ ザイゴウゲンジン	繁盛する にぎわう 工事が終了すること 落成 平時は民間で生業に就いているが、戦時には必要に応じて召集され国防の任に就く予備役・後備役などの軍人
302	費消 人絹	ヒショウ ジンケン	金銭などを使い果たすこと 消費 天然の絹糸をまねてつくった化学繊維 綿花・木材パルプなどの繊維素を薬品で溶かして加工したレーヨン・アセテートの長繊維をいう
	既報 立消 県属 管掌	キホウ タチギエ ケンゾク カンショウ	すでに報道をしたこと 計画などがいつの間にかなくなること 旧制で、県の事務を取り扱う役人のこと 旧市制・町村制において、市町村長などに故障のある場合に、監督官庁が官吏を派遣してその職務を行わせること
303	廿 箱 人絹	ニジュウ ハコ ジンケン	20 換算箱:1換算箱は、厚さ2mm、面積9.29㎡の板ガラスの数量をあらわす単位 天然の絹糸をまねてつくった化学繊維 綿花・木材パルプなどの繊維素を薬品で溶かして加工したレーヨン・アセテートの長繊維をいう
	六千七百坪 馬力	6700ツボ バリキ	22,110平方メートル 仕事率の単位 1馬力は、75キログラムの物を毎秒1メートル動かす力 仏馬力では735.5ワット 英馬力では746ワット
	万端 殆ど 凌ぐ	バンタン ホトンド シノグ	ある事についてのあらゆる事柄・方法 おおかた 大部分 他のものを追い抜いて上に出る 他よりまさる
304	造兵廠	ゾウヘイショウ	旧日本陸海軍で、兵器・弾薬・車両・艦船などの購入・設計・製造・修理などを担当した機関および工場 昭和15年(1940)に砲兵工廠から造兵廠へ
	爾来 変遷 砲兵工廠 漸次 隷下 支那事変	ジライ ヘンセン ホウヘイコウショウ ゼンジ レイカ シナジヘン	それからのち それ以来 時の流れとともに移り変わること 日本の陸軍造兵廠の前身 しだいに だんだん 配下 昭和12年(1937)7月の盧溝橋(ろこうきょう)事件をきっかけにして起こった日本と中国との間の戦争(日中戦争) はじめ日本政府は支那事変あるいは日支事変と呼んだ
	工廠 火砲 信管 薬莖 大東亜戦争 而して	コウショウ カホウ シンカン ヤッキョウ ダイトウアセンソウ シコウシテ、シカシテ	旧陸海軍に所属し、兵器・弾薬などの軍需品を製造・修理した工場 大砲など、比較的口径の大きい火器 砲弾や爆弾などの弾頭または弾底に取り付け、炸薬(さくやく)を点火・爆発させる装置 銃砲の弾丸の発射薬を詰める円筒形の容器 底部に雷管がついている 太平洋戦争の日本側での当時の呼称 そして また それから
305	白砂青松 謳われた 申述 中日事変	ハクシャセイショウ ウタワレタ シンジュツ チュウニチジヘン	白い砂浜と青々とした松原 美しい海岸の景色をいう 多くの人々に褒めたたえられた 申し述べること 昭和12年(1937)7月の盧溝橋(ろこうきょう)事件をきっかけにして起こった日本と中国との間の戦争(日中戦争) はじめ日本政府は支那事変あるいは日支事変と呼んだ
	火砲 造兵廠	カホウ ゾウヘイショウ	大砲など、比較的口径の大きい火器 旧日本陸海軍で、兵器・弾薬・車両・艦船などの購入・設計・製造・修理などを担当した機関および工場 昭和15年(1940)に砲兵工廠から造兵廠へ
	砲身 鑄鋼	ホウシン チュウコウ	大砲の弾丸を込める薬室と砲弾の通る腔綫(こうせん)のある円筒の部分 鑄造に用いられる、炭素含有量1パーセント以下の鋼 鍛造では作りにくい複雑な形で、鑄鉄の鑄物では強度が不足する場合に用いられる
	ノモンハン 巨砲 泡を食つた 此处 楼上 招致 憲兵	ノモンハン キョホウ アワヲクッタ ココ ロウジョウ ショウチ ケンペイ	モンゴル東部、中国との国境近くにある町 大きな大砲 驚きあわてる ここ 高い建物の上 階上 招き寄せること 陸軍で、軍事警察をつかさどる兵 日本では明治14年(1881)に創設され、陸軍大臣の管轄に属した のち、しだいに権限を拡大し、一般民衆の思想取り締まりを主要任務と

史料番号	字句	よみ	意味
	跨る 650,000坪 佐官 威嚇行動 坪 挙行 サンドポンプ 時めく 進捗 世人 将星 茲に 300屯級	マタガル 650,000ツボ サカン イカクコウドウ ツボ キョコウ サンドポンプ トキメク シンチョク セジン ショウセイ ココニ 300トンキュウ	するようになった …におよぶ 亘る 2,145,000平方メートル 2,145平方キロメートル 軍人の階級で、大佐・中佐・少佐の総称。将官の下、尉官の上 280【軍隊の階級】参照 威力をもっておどす行い 土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル 儀式や行事などをとり行うこと 水底の泥砂を水とともに吸い上げるポンプ 揚砂ポンプ 時を得てもはやされる 物事がはかどること 世の中の人 世間の人 将軍 大将 ここに メートル法で、1トンは1000キログラム 船舶の大きさを質量や容積で表す単位 排水トン数・載貨重量トン数・総トン数・容積トン数・純トン数など 中に物質を入れて加熱し、溶解・焙焼(ばいしょう)・高温処理などを行う耐熱製の容器 アルカリ性 電気の発熱作用を利用した炉 温度調節が容易で廃ガスがなく、熱効率がよい 板金などの材料に圧力を加えて成型すること また、その機械 圧力を加えること スチームハンマーのこと ヤード-ポンド法の長さの単位 1フィートは12インチ、約30.48センチ 27.432メートル 穴をあけて通す 圧延機に金属を通して棒・板などに引き延ばすこと 仕事率の補助単位 1キロワットは1000ワット
	ルツボ 塩基性 電気炉 プレス 鍛圧 汽槌 呷 90呷 穿盤 圧延 70,000キロワット	ルツボ エンキセイ デンキロ プレス カアツ キヅチ フィート 90フィート センバン アツエン 70,000キロワット	国や自治体が建てた公務員の宿舎 公務員住宅 炊爨＝飯を炊くこと 炊飯 軍隊で、少尉以上の武官 280【軍隊の階級】参照 こうして 「判任官」の略＝明治2年(1869)以来の官吏の身分の一 天皇の委任を受けた各大臣・各地方長官など行政官庁の長によって任命された官 高等官(親任官・勅任官・奏任官)の下に位した 官吏＝大日本帝国憲法の下では天皇の官制大権および文武官の任免大権(大日本帝国憲法10条)によって任免される者を指し、軍務に服する武官とそれ以外の文官を包含する 10センチメートル 侵入する敵機を迎撃するのに用いる火砲 旧日本陸軍での呼称 主として 主要なさま ここ(播磨製造所) ノイマン効果(円錐形のくぼみに金属板で内張り(くぼみと同じ形の金属の円錐をはめ込むこと)をすると穿孔力がさらに強くなる現象)を利用して貫通力を高めた爆弾 極秘のうちに つりあいのとれていない状態のまま、物事が進行していくこと 人づてやうわさなどで聞くこと 少し耳にはいること こうしてほしいと、望むこと 天皇の言葉 明治憲法下で、天皇が大権に基づき、国务大臣の副署を要さないで、直接国民に対して発した意思表示 特別の学術、技芸に関する仕事にたずさわる公務員 仕事を頼んで任せること
	官舎 炊さん 将校 斯して 判任	カンシャ スイサン ショウコウ カクシテ ハンニン	
	文武官	ブンブカン	
	十糎 高射砲 専ら 此処 さくら弾	10センチ コウシャホウ モツパラ ココ サクラダン	
	極秘裡に 跛行的 仄聞 所望 勅語	ゴクヒリニ ハコウテキ ソクブン ショモウ チョクゴ	
	技官 囑託	ギカン ショクタク	
306	三十万坪 深田 日華事変 ひっ迫 躍起 火砲 造兵廠 二七万坪 圧延	300000ツボ フカダ ニッカジヘン ヒツパク ヤッキ カホウ ゾウヘイショウ 270000ツボ アツエン	990,000平方メートル どろの深い田 ふけ ふけた 昭和12年(1937)7月の盧溝橋(ろこうきょう)事件をきっかけにして起こった日本と中国との間の戦争(日中戦争) はじめ日本政府は支那事変あるいは日支事変と呼んだ 逼迫 行き詰まって余裕のないこと 事態が差し迫ること あせってむきになること 大砲など、比較的口径の大きい火器 旧日本陸海軍で、兵器・弾薬・車両・艦船などの購入・設計・製造・修理などを担当した機関および工場 昭和15年(1940)に砲兵工廠から造兵廠へ 891,000平方メートル 圧延機に金属を通して棒・板などに引き延ばすこと
307	造兵廠 砲身	ゾウヘイショウ ホウシン	旧日本陸海軍で、兵器・弾薬・車両・艦船などの購入・設計・製造・修理などを担当した機関および工場 昭和15年(1940)に砲兵工廠から造兵廠へ 大砲の弾丸を込める薬室と砲弾の通る腔綫(こうせん)のある円筒の部分

史料番号	字句	よみ	意味
	所望 工廠 衆知 狹隘 恰適 懸念 至便 支弁 不取敢 目途 令達予算 増額方註議相	ショモウ コウショウ 周知【シュウチ】 キョウアイ コウテキ ケネン シベン シベン アエトラズトモ モクト レイタツヨサン 成度申添ふ ゾウガクガタセンギ アイナリタクモウシソウ	こうしてほしいと、望むこと 旧陸海軍に所属し、兵器・弾薬などの軍需品を製造・修理した工場 世間一般に広く知れ渡っていること 面積などが狭くゆとりがないこと 好適 目的にかなっていて、ちょうどよいこと 気がかり 心配 この上なく便利なこと 金銭を支払うこと あえて(申請を)取らずとも 見通し 令達(命令を伝えること また、その命令)を受けた予算 増額について評議してほしく申し添えます
	已むを得ざる 三十万坪 乾田 坪 狭少 余地 相半	ヤムヲエザル 300000ツボ カンデン ツボ キョウショウ ヨチ アイハン	仕方のない 990,000平方メートル 水はけのぐあいがよく、水を入れないときには乾いて畑の状態になる田 土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル 面積が小さい、少ない 物事をさらに行いうるゆとり 余裕 二つとも同じくらい
308	造兵廠 工廠 敷潰地 上地 反	ゾウヘイショウ コウショウ シキツブシチ ジョウチ タン	旧日本陸海軍で、兵器・弾薬・車両・艦船などの購入・設計・製造・修理などを担当した 機関および工場 昭和15年(1940)に砲兵工廠から造兵廠へ 旧陸海軍に所属し、兵器・弾薬などの軍需品を製造・修理した工場 建築用地として地上げする(した)土地 土地を没収(買上げ)すること 土地の面積の単位 1町の10分の1 1反は991.74平方メートル
309	造兵廠 進駐軍 繫留 舢艫 轟然 三里 少尉 全潰 半潰	ゾウヘイショウ シンチュウケン ケイリュウ フセン ゴウゼン サンリ ショウイ ゼンカイ ハンカイ	旧日本陸海軍で、兵器・弾薬・車両・艦船などの購入・設計・製造・修理などを担当した 機関および工場 昭和15年(1940)に砲兵工廠から造兵廠へ 他国に進軍して、そこに駐屯している軍隊 特に第二次大戦後、日本に進駐した連合 国軍の俗称 船などをつなぎとめておくこと 係留 はしけぶね=河川・港湾などで大形船と陸との間を往復して貨物や乗客を運ぶ小舟 大きな音がとどろき響くさま 尺貫法の距離の単位 1里は36町で、3.927キロメートル 三里=11.78キロメートル 280【軍隊の階級】参照 災害などで建物などがもとの形がわからないほどすっかりこわれること 全壊 建物などが半分くらいこわれること 半壊
310	坪 馬力	ツボ バリキ	土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル 仕事率の単位 1馬力は、75キログラムの物を毎秒1メートル動かす力 仏馬力では 735.5ワット 英馬力では746ワット
311	砲兵工廠 統制 被認候条 内申書御提出 包含	ホウヘイコウショウ トウセイ ミトメラレソウロウジョウ 相成度 ナイシンショゴテイ シュツアイナリタシ ホウガン	日本の陸軍造兵廠(りくぐんぞうへいしょう)の前身 一定の計画や方針に従って指導・制限すること 認められるので 内申書をご提出していただきたい 中にふくんでいること
312	内務省 諮ふ 五十一坪 而して 既往 趨勢 亙り 局限 包含 諮問 幹流 派流 廢川 位せる 讓与 省線 砲兵工廠 開鑿 氾濫	ナイムショウ トウ 51ツボ シコウシテ、シカシテ キオウ スウセイ ワタリ キョクケン ホウガン シモン カンリュウ ハリユウ ハイセン、ハイガワ イセル、クライセル ジョウヨ ショウセン ホウヘイコウショウ カイサク ハンラン	第二次大戦前の中央行政官庁 警察・地方行政・土木などの内務行政を統轄した 明 治6年(1873)設置、昭和22年(1947)廃止 意見をたずねる 168.3平方メートル そして また それから 過去 ある方向へと動く勢い 社会などの、全体の流れ および 一定の部分に範囲を限ること 中にふくんでいること 有識者または一定機関に、意見を求めること 主流 本流 本流から分かれた流れ 支流 不要のものとして埋めた川 人工的に廃止された川 位置する 財産・権利などを対価なしで他人に与えること 鉄道省線 官鉄、国鉄 日本の陸軍造兵廠(りくぐんぞうへいしょう)の前身 土地を切り開いて道路や運河などを通すこと 洪水になること

史料番号	字句	よみ	意味
	決潰	ケツカイ	堤防などが切れて崩れること 決壊
313	介在 存置 儘	カイザイ ソンチ ママ	二つのもの間にはさまってあること そのまま残しておくこと 存続 そのまま
314	陳情書 恰好 具備 商舖 統制 企図 賒す 而も 全ふする 所以 予て 陳情 樹て 翹望 願意御採用相	チンジョウショ カッコウ グビ ショウホ トウセイ キト ノコス シカモ マツトウスル ユエン カネテ チンジョウ タテ ギョウボウ ガンイゴサイヨウアイナリタクチンジョウカタガタセイガンソウロウナリ	中央や地方の公的機関などに実情を訴えて、善処してくれるよう要請する文書 ちょうどよい 必要な物や事柄を十分に備えていること 品物を売る店 商店 一定の計画や方針に従って指導・制限すること 計画 もくろみ 残す しかも 完全に終わらせる 理由 以前から 前から 中央や地方の公的機関などに実情を訴えて、善処してくれるよう要請すること 立て 首を長くのばして待ち望むこと 願意(願ひ出ていること)の主旨)をご採用していただきたく陳情方々 お願いいたします
	交付金御下渡	カウフキンオクダシワタシアイナリソウロウヨウイタシタクソウロウ	願意(願ひ出ていること)の主旨)をご採用していただきたく陳情方々 お願いいたします 交付金を下し渡すようにしてほしいです
315	統制 小山塊 山塊 サンドポンプ 浚渫 暁 余剰 造兵廠 可成り 需給 鑑み 細目 地先 準拠 使途	トウセイ コサンカイ サンカイ サンドポンプ シュンセツ アカツキ ヨジョウ ゾウヘイショウ カナリ ジュキユウ カンガミ サイモク チサキ ジュンキョ シト	一定の計画や方針に従って指導・制限すること 山塊＝山系・山脈から離れ、塊状になっている山地 小さな山地 山系・山脈から離れ、塊状になっている山地 水底の泥砂を水とともに吸い上げるポンプ 揚砂ポンプ 海底・河床などの土砂を、水深を深くするために掘削すること 実現したその際は 必要分を除いた残り 余り 旧日本陸海軍で、兵器・弾薬・車両・艦船などの購入・設計・製造・修理などを担当した 機関および工場 昭和15年(1940)に砲兵工廠から造兵廠へ 相当 需要と供給 過去の例や手本などに照らして考える 細かい点について規定してある項目 その土地から先へ(埋立地)つながっている場所 あるものをよりどころとしてそれに従うこと 使い道
316	内務省 式百四拾六万七百坪 幅員 国民学校 些少 資せむ	ナイムショウ 2460700坪 フクイン コクミンガッコウ サショウ シセム	第二次大戦前の中央行政官庁 警察・地方行政・土木などの内務行政を統轄した 明治6年(1873)設置、昭和22年(1947)廃止 8.120平方キロメートル 道路などの、幅 昭和16年(1941)公布の国民学校令により従来の小学校を改めて成立した、皇国民の 基礎的練成を目的とする初等教育機関 わずかなこと 役立たせる
317	曩に 内務大臣 竹木土石 県令 拘らづ 不尠 蒙る 爾今 周知方可然御 此段及御依頼	サキニ ナイムダイジン チクモクドセキ ケンレイ カカワラズ スクナカラズ コウムル ジコン シュウチガタシカルベクオトリハカライアイナリタク コノダンニオヨビゴイライソウロウナリ	先に 以前に 内務省の長官 内務省＝第二次大戦前の中央行政官庁 警察・地方行政・土木などの内務行政を統 轄した 樹木と竹、土と石 旧制で、県知事の発した命令 …なのにそれでも …であるのに 少なくない …を受ける 今後 以後 周知するとともに適切な取り計いをお願いしたく この件についてご依頼します
318	大東亜戦争 勃発 四圍 夥しく 工廠	ダイトウアセンソウ ボツパツ シイ オビタダシク コウショウ	太平洋戦争の日本側での当時の呼称 事件などが突然に起こること 四方から取り囲むこと 周囲 非常に多い はなはだしく 旧陸海軍に所属し、兵器・弾薬などの軍需品を製造・修理した工場

史料番号	字句	よみ	意味
	軍需 趨勢 論を俟たず 茲に 遠大	グンジュ スウセイ ロンヲマタズ ココニ エンダイ	軍事上必要とされること また、その物資 ある方向へと動く勢い 社会などの、全体の流れ 論じるまでもない 当然 ここに 計画の規模が、将来まで見通して大きいさま
319	建物疎開 伸長 租税 公課 已むを得ざる 予め	タテモノソカイ シンチョウ ソゼイ コウカ ヤムヲエザル アラカジメ	空襲により火災が発生した際に重要施設への延焼を防ぐ目的で、密集した建物群の一部を除去し、防火地帯を作ること 長さなどを伸ばすこと 法律に基づいて国民や住民から強制的に徴収する金銭 国または地方公共団体によって課せられる租税以外の公の金銭負担 手数料、使用料など 仕方のない 前もって
320	建物疎開 坪	タテモノソカイ ツボ	空襲により火災が発生した際に重要施設への延焼を防ぐ目的で、密集した建物群の一部を除去し、防火地帯を作ること 土地の面積の単位 1坪は6尺平方で、約3.3平方メートル
321	建物疎開 遺憾 内務省 戦災復興院 運輸省 幅員 附設 予め 操車場 交叉	タテモノソカイ イカン ナイムショウ センサイフツコウイン ウンユショウ フクイン フセツ アラカジメ ソウシャジョウ コウサ	空襲により火災が発生した際に重要施設への延焼を防ぐ目的で、密集した建物群の一部を除去し、防火地帯を作ること 残念に思うこと 第二次大戦前の中央行政官庁 警察・地方行政・土木などの内務行政を統轄した 明治6年(1873)設置、昭和22年(1947)廃止 昭和20年(1945)11月、戦災に遭った市街地や住宅を再建するために設けられた政府機関 陸・水・空の交通運輸、船舶、船員、港湾、観光、海上保安、気象に関する事務を担当した国の行政機関 大正9年(1920)設立の鉄道省の後身で、昭和20年(1945)設置 道路などの、幅 付属させて設けること 前もって 列車の編成や車両の入れ換え・整備などを行う場所 2本以上の線状のものが、ある一点で交わること また、互い違いになること
322	ふん糾 挂冠 最極点 4600坪 殆ど 逼迫 吏員 せん延 呈示 こん后 具申書 貧窮 請願書 愈々 雲行 醜聞 困窮 遺憾 大所高所 部面 駈引き	フンキウ ケイカン、カイカン サイキョクテン 4600ツボ ホトンド ヒツパク リイン センエン テイジ コンゴ グシンショ ヒンキウ セイガンシヨ イヨイヨ クモユキ シュウブン コンキウ イカン タイショコウショ ブメン カケヒキ	紛糾 意見や主張などが対立してもつれること 官職を辞めること 辞職すること 物事の度合いの最も高まったところ 4600坪=15,180平方メートル おおかた 大部分 行き詰まって余裕のないこと 事態が差し迫ること 公共団体(町役場)の職員 遷延 のびのびにすること 差し出して見せること 今後 詳しく申し述べた文書 特に、上位の機関に対して意見や事情を詳しく述べた文書 貧しくて苦しむこと 国民が地方公共団体の機関に対して、損害の救済などをの事項に関し希望を申し出る文書 どうとう ついに 物事の成り行き 形勢 名誉や人格を傷つけるような、よくないうわさ 情事などのうわさ 困り果てること 残念に思うこと 小さな点にこだわらない、広く全体を見通すような観点・視野 物事をいくつかに分けた一つの部分 相手の出方や状況に応じて自分に有利になるように処置すること
323	三千四百二十八坪 固執 あっせん	3428ツボ コシツ、コシユウ アッセン	3428坪=11,312.4平方メートル あくまでも自分の意見を主張して譲らないこと 斡旋 間に入って双方をうまく取り持つこと
324	満州 南方 洋上 本土	マンシュウ ナンポウ ヨウジョウ ホンド	中国東北地方の旧称 遼寧・吉林・黒竜江の東北三省と内モンゴル自治区の一部にわたる フィリピン、マレー、インドネシア、タイ・ビルマ、グアム、ボルネオ、ガダルカナル等東南アジア、南太平洋地域 ミッドウェー、ソロモン、ブーゲンビル、マリアナ、レイテ等で海戦の行われた海域 帰還兵の戦傷病死 日本国内、内地